

科目名 クラス 講義区分	曜日	科目名 クラス 講義区分	曜日
世界市民－東南アジア入門 <秋>	水1	共通教養特別講義－『カラマーゾフの兄弟』を読んで・見る <春>	木3
<p>【教員氏名】 深見 純生</p> <p>【単位数】 2 単位</p> <p>【講義・演習概要】 仕事でも観光でも東南アジアは近年ますます身近になっている。人の往来はますます盛んである。しかし、東南アジアは実際にはどんなところだろうか。長くつきあっていかねばならない東南アジアについて知っておこう。日本に似ているようであり、似ていないようでもある。 一見したところ統一性のない多様な世界であるが、表面的多様性に惑わされてはいけない。我々の見方をきたえれば、同質性・一体性ある一つの地域としての東南アジアが浮かび上がってくる。 特定の教科書は使用しない。いわゆるノート講義である。適宜映像資料（ビデオ）を使用する。</p> <p>【学習目標】 東南アジアは21世紀になって世界の政治と経済の中で存在感を増している。2015年には東南アジア共同体への歩みが始まり、EU＝欧州連合に次ぐ世界で2番目の広域共同体に発展するだろう。東南アジア共同体が夢物語ではないことが理解できればよい。</p> <p>【講義・演習計画】 第1回：オリエンテーション アジアの地理区分の中の東南アジア 東南アジアは外から与えられた他称である。 第2回：アジアの文化圏の中の東南アジア 大文化圏という考え方では東南アジアは見えない。 第3回：モンスーンアジア 東南アジアはモンスーンアジアの中央に位置する。 第4回：多様性 1 地理 複雑な地理を簡潔に説明する。 第5回：多様性 2 文化・社会 言語や宗教はたいへん多様である。世界の主な宗教がみんなある。 第6回：多様性 3 政治・経済 政治制度や経済構造もまた多様である。日本以上の先進国から最貧国まで。 第7回：一体性 1 生態＝島の熱帯 地球上で唯一の島の熱帯である。 第8回：一体性 2 小人口世界 東アジアや南アジアに比べて小人口である。その意味は何か。 第9回：共通性 1 基層文化 衣食住の基層文化3点セットに注目。 第10回：共通性 2 基層文化と外来文明 インド文明、中国文明、イスラム文明、さらに西洋文明も。 第11回：同質性 1 植民地支配 19世紀、植民地支配下で近代化が始まった。 第12回：同質性 2 国民国家・国民文化の形成 第二次世界大戦後独立国家がそれぞれの道を歩む。 第13回：一体化 1 ASEAN＝東南アジア諸国連合の形成と展開 1970年代～1990年代に「アジアの奇跡」といわれた経済発展 第14回：一体化 2 東南アジア共同体は可能か 21世紀の今、東南アジア共同体が視野に入ってきた。 第15回：まとめ 表層において多様だが基盤における同質性のうえに一体化が進行する</p> <p>【成績評価の方法】 試験評価：100% レポート：25% 時々小レポートを課す（25%）。しかし、その提出は義務ではない。期末試験（100点満点）と小レポートを総合して評価する。</p> <p>【参考文献】 桃木至朗他編『新版 東南アジアを知る事典』平凡社2008 京都大学東南アジア研究センター編『事典 東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂1996</p> <p>【準備学習の指示】 新聞を読んで東南アジア関係の記事に日常的に接しておくのがよい。</p>	<p>【教員氏名】 国松 夏紀</p> <p>【単位数】 2 単位</p> <p>【講義・演習概要】 一人では通読するのが難しい（？）、19世紀ロシアの長篇小説、ドストエフスキーの遺作『カラマーゾフの兄弟』を<皆で>読もうという訳です。いくら長くても皆で読めば怖くない。その補助手段として、ロシアのTV版『カラマーゾフの兄弟』もDVDで視聴します。原作を読むこと（講義）と映像を見ること、そしてほぼ毎回レポートを書くこと、この作業の反復となります。</p> <p>【学習目標】 映像は原作をしのげるか？ 或いは、映像は原作の及ばないとすればそれはどういうところか？ そのような課題を解明することも学習目標となりますが、それよりはむしろ、両メディアの相互反復受容により、ドストエフスキーの提示した「ロシア」と「人間」というものについて、受講生ひとりひとりが何か考えてみる、もしくは、何か考えてみるきっかけをつかむことの方が大事かも知れません。</p> <p>【講義・演習計画】 第1回：オリエンテーション 読む；原作『カラマーゾフの兄弟』全12篇＋エピソード、1回の授業で1篇につき講義 見る；DVD6枚組（各87分or88分）、1回の授業で1枚の半分くらいを視聴 （読む原作部分と見る映像部分とは対応するとは限らないので注意すること） 毎回、読む・見るについてレポート提出 第2回：ドストエフスキーの生涯と創作、その時代－19世紀ロシア 第3回：読む；第1篇「ある家族の歴史」 見る；Disc 01 前半 読む；第1篇「ある家族の歴史」 見る；Disc 01 前半 第4回：読む；第2篇「場違いな会合」 見る；Disc 01 後半 第5回：読む；第3篇「女好きな男ども」 見る；Disc 02 前半 第6回：読む；第4篇「病的な興奮」 見る；Disc 02 後半 第7回：読む；第5篇「肯定と否定」 見る；Disc 03 前半 第8回：読む；第6篇「ロシアの修道僧」 見る；Disc 03 後半 第9回：読む；第7篇「アリョーシャ」 見る；Disc 04 前半 第10回：読む；第8篇「ミーチャ」 見る；Disc 04 後半 第11回：読む；第9篇「予審」 見る；Disc 05 前半 第12回：読む；第10篇「少年たち」 見る；Disc 05 後半 第13回：読む；第11篇「兄イワン・フォードロヴィチ」 見る；Disc 06 前半 第14回：読む；第12篇「誤審」 見る；Disc 06 後半 第15回：読む；「エピソード」 質疑応答とまとめ 最終レポート提出</p> <p>【成績評価の方法】 試験評価：28% レポート：72% 出席：0% 上記の「試験28%」は、「最終レポート」に対する配点率です。 同じく「レポート72%」は見る（及び読む）12回分×6点、という配点率です。 従って、出席だけでは「点」にならないということです。</p> <p>【参考文献】 「テキスト」は特に無し。『カラマーゾフの兄弟』の翻訳本は各自「調達」すること。 「参考文献」等については授業中に随時言及します。</p> <p>【準備学習の指示】 『カラマーゾフの兄弟』については、授業と並行して読んで行くとして、ドストエフスキーの他の長編小説、『罪と罰』、『白痴』、『悪霊』そして『未成年』のうちどれか一つだけでも読んでおくこと。</p>		